

令和6年度 第3回 宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

日時：令和7年2月25日（火）午後2時00分～

場所：宇城市役所 新館1階 第2会議室

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）宇城市地方創生総合戦略素案について

（2）宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について

（3）その他

4 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 有識者会議委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 【資料1】 宇城市地方創生総合戦略素案
- ・ 【資料2】 宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価について
- ・ 【資料3】 宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価シート
- ・ 【参考資料】 宇城市過疎地域持続的発展計画
- ・ 【参考資料】 宇城市総合計画（2025-2032）

1 開会

欠席委員：植田委員、藤本委員、米山委員、坂井委員

2 会長挨拶

前回会議時に示されていた次期戦略の策定について、今回内容が前回に比べれば肉付けされているため、本日は主にこの総合戦略素案について、皆様からの忌憚のない御意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

3 議事

(事務局)

議事については、有識者会議運営要綱の規定により、会長に議事進行をお願いする。

(会長)

それでは議事に入る。(1) 宇城市地方創生総合戦略素案について事務局から説明をお願いする。

(事務局)

【資料1】宇城市地方創生総合戦略素案について説明

(会長)

事務局の説明に関して、委員の皆様から御意見、御質問等はないか。

(委員)

事前に資料を読ませてもらい、OODAループというのが最近流行っているが、そのようなことも入れた方が良いのではと伝えたところ、ちゃんと最後に入れてあった。これがやっぱり一番大事ではないかと思っている。

これまでの計画もPDCAサイクルを回していくということでやられていたんだろうが、やはり年数が長くなっていく中で見直しというのがいかに大事かというところ。この計画に書いてあることはまさにこの通りで素晴らしいことだと思うし、特に意見はないが、その実行の仕方やKPIの定め方というのが一番難しいんじゃないかなと思う。

今日の資料に評価シートがあるが、実施なしというのが結構あり、これはどういったことなのかなと理解に苦しむところが正直ある。それも1年ではなく、多年にわたって実行されていない。実行できないんだったら、計画に乘せるべきではないのではないか。

ですので、やはりそういったことも踏まえたところで今後の計画、そしてKPIの設定についても検討いただいて、しっかり実行できること、できなければ例えばこの中にもあるが、解体をやるということが書いてあるが解体できていない。予算が付けられなかったのかなという気はするが、解体すれば終わりではなくて、そこをどう活用するのか、もしかすると解体せずに活用する方法もあるかもしれない。そういったこともあると思うので、やはり何をやりたいのかということが先に来るべき。

そういった観点から計画の策定をしていくと良いのではないかと思う。

(事務局)

総合戦略だけでなく、過疎計画含めその他の計画においてもPDCAサイクルをきちんと回していくということはもちろん、OODAループの考え方についても浸透させていきたい。

(委員)

私も事前に資料を見させていただいたが、素晴らしい内容が入っている。

ただ、委員からもあったように中間評価シートの中で実施なしというところが多々ある。結局、戦略自体は素晴らしいものが出来ているが、実施しないということはもう総合戦略自体が欲張りすぎているのではないか。もう少しシンプルに簡素化して、やはり決めた以上は皆さんベクトルを合わせて向かっていかなければならないと思うので、少なくとも実施なしとかがあるのは問題ではなかろうかと思う。

素晴らしい戦略だが、このように実施なしというのを見ると、やはり欲張りすぎているという風に思えてならなかった。

(事務局)

資料の提示の仕方が悪く、分かりづらくなっており申し訳ない。

本日議事として2つあり、資料1が今の議事の地方創生総合戦略素案、資料2と3が次の議事である過疎地域持続的発展計画に関するものとなっており、評価シートについては、総合戦略に基づく事業ではなく過疎地域持続的発展計画に基づく事業の評価シートとなっている。

過疎計画の中間評価については、事務局としても実施なしが思っていた以上に多く、これまで評価など行っていなかったため、反省しているところ。

総合戦略については、これを基に国の交付金等の活用も行っていくことから、できるだけ取りこぼしのないよう幅広く記載している。

(会長)

K P I の作り方だが、例えば認定農業者数 5 8 0 人は延べ人数なのか。公民館講座参加者数は延べということが書いてあり分かりやすい。このように単年なのか、4 年間の延べ人数なのか、あるいはその時点での人数なのか、その辺の見方、表現の仕方がまずいのかなというところがある。その辺をすべての項目で分かるように表示をしてもらいたい。

(委員)

現状分析をされているところで、4 ページの人口の 2 つ目のひし形の最後の方で「避けられない状況にあります」、5 ページの二行目に「今後もその傾向が拡大することが予想されます」とある。

マイナスの事を予想されて多分現実ではあるのだろうが、ちょっと後ろ向きに見えてしまうので、もう少し表現の仕方を工夫できるのではないか。データから見て、そのまま書く方法もあるが、「避けられない」というと自分たちの今からやろうとする取組を頭から否定している感じがにじみ出ているので、ちょっと表現を変えた方が良いのかなと思う。「このまま何もしなければ」とか入れるのもありかもしれないし、そうすると何か政策を打っていくという意欲が見える。

もう一点、第 2 期戦略の取組状況と課題のところ、4 本柱でそれぞれ 3 点ずつ書いてあるが、それを読んでいくと、1 点目に目標値を下回っていますと書いてあり、2・3 点目はいきなり「必要です」と今後の方向性を書いてある。1 点目で現状を書いたならば、2 点目はその背景や想定される理由、課題みたいなものがあって、最後にだからこういうことをしないとイケないんですよと起承転結みたいな流れになるのかなと思うが、全般的にそこが欠けているのではないかな。

総括として、課題や課題が難しければ課題らしきもの、そういったものがないと今後の方向性を語るというのは文章の流れがおかしくなる。

基本的には書かれていないかなと思ったので、そこは何か入れる努力をしていただきたい。

(会長)

現状分析をしてみて何が課題なのか、課題に対して取組む方法は多面的であり、そこにオリジナリティがある。

章のタイトルが「取組状況と課題」としているのも、少なくともどういう取組をして何が課題となっているのか。達成しているものについてはなぜ達成できたのか、未達のものは何が足りなかったのか、そこが無いと P D C A といっても

その部分をきちんと担当課が認識しないと、また同じようになってしまう。現状がこうだからこういうことをした、その結果に対する問題意識というのををもって、それらを凝縮したものがこの総合戦略の文言になると思う。

委員が言われたように、現状と課題を整理して、また、4ページの「避けられない」なども「回避しなければならない」など、同じ意味合いだけれども書きぶりによって印象が変わるものもあるので、よりよい表現にしていきたい。

(委員)

前の会議でも言ったが、民間企業であれば、資金調達をし、それで事業をしてリターンを求める。売り上げや利益などを見ていく。

そういった観点から見たときに、行政はどちらかというと予算があって、予算を事業としてやる、そのリターンまでは考えていない。中々難しいが、それをなんとか見える化できないか。

例えば税収とか、子育て政策がうまくいって子供が増えたとか人口が増えたとなればそれで市民税が上がるとし、企業誘致ができた、企業が儲かったとなればそこでも税収は増えていく、設備投資もうまくいけば固定資産税も上がる。そういった形で市内、全部統一して見れるのは税しかないのかなと思うが、何かしらのすべての課、やっていることは全く違うと思うし、ただ、どこに帰結するかということを考えたときにやはり税かなという気もする。これは税にしないということではないが、何かしらそういう指標があって、そういったものを追い求めていく。

なるべくならばこのそれぞれの大項目4項目の中でも一番上に数値目標が書いてあるが、これをやることによってどうなるのか、おそらく単年では結果が出ないと思う。複数年にわたって出てくると思うので、そういったところで税収が増えたんだったら、これをやったからこれぐらいが増えたんだとかっていうのが見えれば、やる方もやる気が出てくるんじゃないかと思うので、そういったことを、検討いただければ。

(会長)

なかなか行政のリターンという概念は難しいということは承知しているが、民間採用を始めたのも、もう行政だけの考えではもう時代遅れになる、従って民間的な視点も取り入れようということで大分前に始まった。

なので、表に出す出さないは置いておいて、住民へのリターン、宇城市のこの施策をやってこの結果が出たことによって何が宇城市の財産になったのか。

例えば、市内の高校生が宇城市のブライト企業にどれくらい就職しているのか、そういったデータを持っていれば、確かに認定されたところには採用が継続

的にあるんだというような、そういった部分を担当課がきちんと把握しておかなければならない。

それと唯一不満なのが、交通結節点に関することが全く出てきていない。交通結節点をいかに利用するのか、インターチェンジがある、J R 駅がある、港がある。宇城市はそういった他の地域にはない比較優位なものを持っているのだから、担当課は理解したうえで、それを十分に活かした様々な施策を展開していただきたい。

K P I は目標値、現状値だけでなく、K P I 自体も検討中ということか。

(事務局)

指標自体も検討中である。

(会長)

次期戦略の取組、成果を図るものとして、よりよいものを選択してほしい。

(委員)

色々分析をするときに、S W O T 分析がある。強み、弱み、内的要因と外的要因。どちらかというとな的的要因が多いと思うが、これから外的要因も出てくと思う。

例えば県が主導して行っている八代の工業団地などができた際に、この地域に及ぼす影響。おそらく T S M C と同等ぐらいの大企業が誘致されてくるとするならば、おそらく賃金とかもこの辺の地元企業、それから農業者の賃金と比べればものすごく高くなって、そっちに魅力を感じて人が向こうに流れてしまう。そうすると、逆に人口流出とか、それから雇用の維持ができないとか、そういったこともなりかねない。

そういった要因が今後見えている部分もあるので、そういう外的要因あたりもちょっと踏まえるといいのかなと思う。ここに書く書かないは別として。

やはりこの見直しの際には、そういったところもどこか勘案した上で計画を策定する、対策を打つといったことが必要ではないかなという風に思う。

(会長)

現状は地域間競争になっている。とりわけ、今回県内多くの自治体で首長が代わっているので、そうすると4年後を目指して何か成果を上げようとする。地域間競争が激化するので、委員が言われたように、計画には書かなくても、その地域間競争に宇城市は勝つんだというのを各担当課が踏まえて、それを事務局が整理するという形で書かないと。

政治的な動きではあるが、結局は基礎的自治体は首長の動きに左右されるというところもあると思うので、その辺を踏まえて次期の計画については考えていただきたい。

(会長)

その他意見が無ければ、次の議題に移る。(2) 宇城市過疎地域持続的発展計画について事務局から説明をお願いする。

(事務局)

【資料2】宇城市過疎地域持続的発展計画の中間評価、【資料3】過疎地域持続的発展計画の中間評価シートについて説明

(会長)

事務局の説明に関して、委員の皆様から御意見御質問等はないか。

(委員)

この資料3にあるのが全部で142項目ということか。

(事務局)

142の事業すべてを審議していただく時間がないため、既に完了したものについては掲載をしておらず、本日お配りしているのは、中間評価で実施なし及び令和8年度以降に延期としたもの。

令和8年度以降の計画を来年度策定するにあたり、委員の皆様から御意見を賜りたい。

(委員)

資料3の上の方にも総括的な数字を書いておいて、実施なしというのが次の一覧ですよというような形にすると分かりやすいのかなと思う。この一覧だけみるとほとんど実施なしなんじゃないかなと思ってしまう。

それと、そもそもこの計画はどこで検討されるのか。こういう委員会があるのか。

(事務局)

過疎計画については、策定は議決事項であるため議会にかけるが、委員会や審議会ではなく、外部の会議は経ずに市で策定している。

(委員)

所属が挙げてきた目標が大体そのまま通るということ。

(委員)

それに予算が付いているということでもないわけで、やろうと思ってもできないというのも多い。

(委員)

そもそも計画に挙げて実施していない理由、実施できなかった理由というのは何があるのか。

(事務局)

多くのものはやはり予算が付かなかったということが理由となっている。

(委員)

この一覧の右側に関連予算を入れるとしたら、やはり手薄なのか。

行政によくあることだが、予算をとるときに計画にも挙げていないのかという風に議会で言われるので、一応頭出しはするという傾向もある。そうしておかないと、計画に上がっていないものに予算は付かないのでとりあえず頭出しして、予算がとれなかったものはこういう感じになっていくという傾向もあるかもしれない。だからできなかったから駄目じゃないかということをストレートに言うってしまうのも、ちょっと酷な面も行政の方としてはある。

(事務局)

計画に挙げた時点では、当然やるつもりはあったが、予算のあるものを優先して実施したというような状況。

(会長)

例えば学校のトイレ関係などは何よりも率先してやっていただきたい。全国的にだが、学校のトイレがいまだに和式、洋式でもウォシュレットが付いていない。つまり、家で当たり前のものが無いから、できないという子がいるので、その辺実施できていないものはできるだけ早く実施してほしい。

それから、実施できたものは緊急性が高かったから時系列的に先に終わったのか、それともたまたま予算が付いたからやったのか。

(事務局)

事業が完了したものは、例えば港湾関係だと、県が行う事業に負担金を支払うということが事業の内容となっているため、こういったものは完了している。また、道路関係については、緊急性もあるが、地元との協議が済んだところから完了していつている。

(会長)

今まで行政が事業をするというと、何か新たなものをつくるとか、そういったことを主眼においていたかと思うが、住民生活の安全を担保するような事業については優先度を高めるべきではないか。

道路整備にしても、どう考えてもここは誰も通らないだろうというような道もあれば、通学路なのに歩道がないところもあるので、そういった部分を再度考えて優先的にしていかなければいけないのではないかと思います。

とくに過疎地域の計画なので、なかなかきつい面もある。また、今は行政も民間企業と近い考え方が必要になってきているのでコンパクトシティなどと言っている。いかに居住地域を定めるかということになるかと思うので、ランダムにそれぞれの課が事業を挙げるというより、全体として人口集約に向かうように、そのベースラインみたいなものが共通としてあれば良い。

三角、豊野の両地域とも観光資源はいっぱい持っている。それらをもっと活かすような事業展開を期待したい。

(委員)

まずもって、この142事業を実施するとしていたとして、この資料が付いていたというところで、この説明が良くわからないということがあるので、そこは整合性を取るというか、これがこれ、実施できていないのがどの事業なんだということが分かるようにしていただかないと判断もしづらい。

中身についても、この資料に書いてあるのは実施なしだが、調査をやったとか、現地確認をやったとか、何もやっていないわけではないと思うので、そういったことが何かしらあれば、それを書くを実施なしよりは良いと思う。

資料の書き方、見せ方というのも大事ではないか。

(会長)

個別事業を評価するから実施なしになるのであって、大分類として9つの分野があつて、そのあとに中分類、小分類として事業があるとしたら、39の事業が延期で5つが実施なしだけれども、中分類でいけば、他のことはできているものも多々ある。そういった意味では、大分類や中分類なりでそれぞれここができ

ている、できていないということを表してあげて、一番下のところでは142あるが、市としてはこの分類にしている、これ実施していないが、全体としては達成できている、あるいは、前進しているというような作り方もある気がする。

(委員)

延期と実施なしの違いは何か。

(事務局)

実施なしは、現在まで実施がなく、今後も実施する予定がないもの。

(会長)

評価シートに「検討する」ということが多く書いてあるが、どのレベルの話か。事業完了を検討するのか、事業着手を検討することなのか。着手したって未完であれば結局一緒。

資料の中で表現がばらばらで、担当課が書いてばらばらということは、市の職員として表現がまずいと思うので、こうした一覧をつくるときは、最後の取りまとめの時に統一してもらった方が、資料をもらう側からすると統一してあるんだなとわかる。

(委員)

この計画は、補助金等を貰うためにつくらなければならない計画という風にしかとれないのだが、そういう位置付けでよいのか。それであれば、今後市としてやりたい内容をいっぱい載せておけば良いと思うし、中間評価としてこれができるできていないというような評価も必要ない気がする。

なので、この位置付け、もっと過疎地域をどうにかしていこうということで、こういったことをやったらという意見を求められているのか、この評価が良かった、悪かったなのか、何を求められているのだろうと困惑している。

やはり何をやるのかやらないのか、何のためにやるのかということを一度精査された方が良いと思う。

(会長)

過疎地域で何か事業をしよう、過疎地域を持続的発展させるためには何が必要かという計画かと思う。きちんと計画通り進むのであれば、財源問題は全く切り離すというのはまずいが、そこが担保されているというものでもない。令和7年で終わりということで、次の計画についてはその辺りも再度整理していただければ。

(委員)

実施なしと延期のものについて、パターン化して示されないか。世の中の変化で必要性が低くなっている、あるいは、予算の確保ができずに先延ばしした、優先度の問題など、いくつかパターン化すると、真に残ったものだけを審議すれば良くなるので、本当に説明すべきところだけに絞ったら良いのでは。

(会長)

その他意見が無ければ、(3) その他について事務局からあるか。

(事務局)

総合戦略について、K P I がまだ設定できていないことや本日いただいた御意見も踏まえ修正等を行うため、3月12日又は14日に次回会議を開催し、説明を行いたいと考えている。できるだけ多く参加いただきたいので、都合を伺いたい。

→14日希望が多かったため、14日に決定

(会長)

委員の皆様から何か御発言はあるか。

特になければ、以上ですすべての議事が終了した。事務局にお返しする。

(事務局)

以上をもって令和6年度第3回まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会する。